

---

# ある日

デンドロン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある日

### 【著者名】

デンドロン

204792

### 【あらすじ】

いつもと同じ日が、いつもと同じじゃなくなつた日。

俺は爪を噛んだ。

今、俺の田の前にはゾウの顔をした上司が椅子に座っている。

比喩でもなんでもない。

その大きな耳をパタパタさせ、長い鼻で俺の報告書を叩き、  
パオパオ鳴いて、そのつぶらな瞳で俺を見つめてくる。

俺の上司は間違つてもこんな可愛くない。

髪が薄くていわゆるバー・コードハゲの頭に、脂ぎった顔、いかにも  
陰険そうな目で、

いつも俺の報告書に文句をつけ、果ては俺の田頃の態度まで大声で  
罵倒し始める、そんな上司だ。

どうしてこうなった？

まさか自分の田や頭をこんなに疑つたが来るとは思いもしなかった。  
どうしてこうなった？

今日の朝はいつも通りに田覚めたはずだ。

勤めている会社はこのボロアパート（もちろん1人暮らし）から歩  
いて10分ほどの所にあるから、そんなに切羽詰まって時間に追わ  
れることは無い。

いつも通りの時間に家を出た。

そこからいつも通りではなくなった。

道ですれ違つ人の顔が、人間では無い。

犬や猫やネズミやペンギン

動物園に迷い込んだかのようだった。

不気味なのが、その動物は、首から下は人間だという事だ。

最初は、この光景に呆然とした。

まだ寝惚けているのか、いやむしろこれはまだ夢の中なんだと思った。

起きろ、俺！などと道の真ん中で自分と戦つていると、通行人に不審げな目で見られた。

なんだか面倒臭くなつて、そのまま会社に向かつた。

会社に着いてからも変わらず、すれ違う人の頭は動物だった。

いつも可愛いなあと思つて見ていた会社の受付嬢はキリンになつていた。

一番仲の良い、同期の佐藤はブタだつた。

食堂のおばちゃんの頭が巨大な蠅の頭になつていたのを見た時はさすがに卒倒しかけた。

困つたことに、彼らの話す言葉は日本語ではなく、動物の鳴き声そのままだ。

上司は、多分いつも通り俺を叱り飛ばしているんだろうが、俺の目にはパオパオ鳴いているゾウが何か必死に伝えようとしているようにしか見えない。

だがもつと困ったことに、俺には彼らが何を言っているのかなんとなく理解できてしまうのだ。

まるで苦手だった英語のリスニングのように、多分、こここの誤字がどうで、そもそも内容が支離滅裂で、というような事を言っているのは分かる。

なんだか大声で笑いたい気分だった。

どうしてひなつた？

やっと気分が収まつたらしいゾウの上間に、すみませんでした、と言つてから自分の席に戻つた。

隣の席の高橋が、大丈夫か？と声をかけてくる。俺には馬の鳴き声にしか聞こえないのだが。

「なあ高橋、俺の顔、何に見える?」

馬の顔は、多分、不思議そうな表情を浮かべているのだろう。  
いつも通りだよ、と馬の鳴き声で答えてくれた。

昔モトカノに、言われたことがある。

あなた、面倒臭いと思っている時に爪噛むの、癖でしょう。

そうだ、俺は、今のこの状況が非常に面倒くさい。

いつそ狂いきついたら、誰かが精神病院にでもぶち込んでくれた

自分の席に座つて、俺は爪を噛んだ。

(後書き)

試しに初投稿してみました。  
実験のような作品なので、読んでくださった方には申し訳なさと感謝でいっぱいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0479n/>

---

ある日

2010年10月28日04時30分発行